

「とっとり評判記」

第13話

なんでも

鳥取のまちのにぎわい



『皇太子殿下山陰道行啓鳥取奉迎誌』(本城常雄・編) 明治45年(1912年)
鳥取県立図書館所蔵 より 智頭街道

こだまちゃん：わあ、すごい人ごみですねえ。

やまびこ博士：店の軒先にびっしり人がいるね。道路を避けているから、よけい混んでいる。

こだまちゃん：ここはどこですか？

やまびこ博士：ここは明治40年(1907年)の鳥取、智頭街道だよ。

こだまちゃん：へえ。今とはずいぶん違うのね。お店も古い建物が多いし。

やまびこ博士：現代の智頭街道にあるのは、鳥取市大火災(昭和27年)の後に作られた建物ばかりだからね。この頃はまだ、江戸時代の建物もずいぶん残っているはずだよ。

こだまちゃん：ほとんどの人が和服を着ているし、道も土のままですねえ。

やまびこ博士：江戸時代から大正の頃まで、鳥取城下町の目抜き通りは智頭街道だった。藩主・池田家が参勤交代で江戸に向かうときの行列もここを通ったし、智頭橋のたもとには藩からの「お触れ」(告知)を掲示するための「制札場」というものもあった。

こだまちゃん：へえ、そうなんだ。

やまびこ博士：現在のように若桜街道が目抜き通りになったのは、昭和に入ってからのことなんだよ。

こだまちゃん：それでこんなににぎやかなんだ。でも、みんな今日は何かを待っているみたい。これから何がはじまるんですか？

やまびこ博士：もうすぐ、ここを皇太子(後の大正天皇)が通ることになっている。それを歓迎するために、みんな集まっているんだよ。

こだまちゃん：みんな、とっても嬉しそうですね。

やまびこ博士：現在でもオリンピックや万国博覧会が開催されると道路やいろいろな施設が整備されるけれども、この時代の天皇の行幸(天皇が皇居を出て、よそへ行くこと)も同じなんだよ。ところが、数十回も地方に出かけた明治天皇であったけれども、今まで一度も山陰地方を訪れることがなかった。それでみんな、皇太子の来訪を待ち望んでいたんだ。

こだまちゃん：ほら、向こうに見えてきたわよ。

<やまびこ博士のつぶやき>

ここで紹介した写真なども展示している鳥取市歴史博物館(やまびこ館)の企画展覧会「城下町とっとりまちづくりのあゆみ」は5月9日まで開催中。

城下町の誕生から現代までの鳥取の町の歴史を、わかりやすく展示しています。

【佐々木孝文(鳥取市歴史博物館学芸員)】

登場人物紹介

やまびこ博士：鳥取市のことならなんでも知っている博士。自転車型のタイムマシーンを持っています。

こだまちゃん：鳥取市内の小学4年生。放課後、やまびこ博士といろいろなことを調べています。

